

さわれるレプリカとさわって読む図録－博物館展示のユニバーサルデザイン－

多くのミュージアムでは、資料を目で見て、解説を読むことで情報を得られるように展示が構築されている。そのため視覚障害者（見えない人、見えにくい人）にとっては、ミュージアムはバリアそのものであるという問題がある。

こうした問題意識のもと、和歌山県立博物館では2種類の展示資料を用意している。一つ目は和歌山県立和歌山工業高等学校と和歌山大学教育学部と連携し、3D スキャナーと3Dプリンターを用いて制作した文化財レプリカで、誰もが自由に触れる資料として活用している。そしてもう一つが、地域の歴史や文化に関わるテーマを紹介するさわって読む図録で、カラー印刷の上に、UV 硬化樹脂透明インクで点字や写真を盛り上げて表しており、墨字と点字、写真と触図を同時に表現することで、見える人、見えない人、見えにくい人がともに利用できる図録となっている。制作にあたっては県立和歌山盲学校の教員に協力していただいている。

この触れるレプリカと、触って読む図録を活用した触れる展示を、博物館ではロビーと常設展示室内に設置している。利用した県立和歌山盲学校の生徒からは「ただ説明を聞くだけだとわかりにくいですが、さわったらよく分かった。見えている人の中に入って一緒に楽しめるのがうれしい」という感想をもらっている。

このようにして作った展示は、障害の有無に関わらず、だれもが楽しみながら、また驚きながら資料への関心を高めることに役立っており、博物館展示におけるユニバーサルデザインの一つの方向性であると考えている。